

慶應義塾大学理工学部体育會 75 年史の刊行によせて

慶應義塾大学理工学部長

慶應義塾大学理工学部体育會会長

青山 藤詞郎



1939 年に藤原銀次郎翁によって日吉の地に藤原工業大学が開校されてから 75 年の歳月が流れました。この記念すべき歴史の節目にあたり「慶應義塾大学理工学部体育會 75 年史」が刊行されますこと、こころよりお祝いを申し上げます。

理工学部の発展の歴史は、決して平坦なものではありません。藤原工業大学は開校から 5 年後に、その全てが慶應義塾に寄附され、慶應義塾大学工学部が発足しました。その後、慶應義塾は、戦争による甚大な被害を受け、工学部は、目黒、溝の口・登戸仮校舎などにおける分散授業の後、1949 年に小金井キャンパスに拠点を移し、1972 年には現在の本拠地である矢上キャンパスに移転して、兼ねてよりの悲願であった日吉地区復帰を果たしました。現理工学部体育会は、まさに、理工学部ともに数々の苦難を克服し、その発展の歴史を刻んでまいりました。創設初期には、「鍛錬部」と称した 14 部の体育団体によって組織され、現在は、21 部によって構成されるゆるぎない存在として今日の理工学部体育会があります。創設以来今日に至るまで、その発展に尽力されてこられた、宮崎吾郎理工学部体育会先輩団体連合会会長をはじめとする、歴代のご関係各位に深甚なる謝意を表する次第です。

世界規模で激動する社会状況の中で、我が国の社会経済の発展と、世界の人々の豊かな暮らしへの貢献のため、国際力豊かな、科学者・技術者の活躍が極めて重要です。創立 75 年記念事業の目標は、世界トップレベルの教育研究拠点の形成による、世界に通じる人材の育成と、グローバルリーダとしての研究者の養成であります。学部から大学院に至るまでの在学中に、意欲ある塾生が国外に出て国際的経験を積むことができる機会をこれまでよりも飛躍的に多く提供し、塾生が社会に巣立つまでに豊富な国際感覚を身につけて、世界に通じる国際力・人間力を養います。また、本塾理工学部・理工学研究科から基礎科学・基盤工学における特徴ある研究活動を世界に向けて発信し、グローバルリーダを育成することを目的として、慶應義塾基礎科学・基盤工学インスティテュートを設置いたします。さらに、慶應イノベーションファウンダリーを設立し、産学官連携研究推進体制を強化することにより、独創的で実用的な技

術開発研究を推進し、その成果を社会に還元することを目指します。

独創性に富む優れた教育研究成果の陰には、ベースとなる知識と多くの経験が積み重ねられています。世に流れる情報から必要なものを「知識」として身につけ、自らの経験に基づいて知識を活用する「知恵」を養うことが重要です。そして新たな提案を行い、その有効性を実証することが要求されます。ここでは豊かな「創造力」が不可欠です。その多くは、単なる勉学や研究活動のみで育成されるものではなく、日常生活における多面的な活動を通して豊かな教養を身につけることによって達成されます。健康な身体と強靱な精神力から生み出される旺盛な好奇心をもって、異分野、異文化に積極的に身を投じ、多くの人々に礼を持って接し、自身の世界を広めていく人間力の育成が極めて重要です。まさに理工学部体育会は、学部・研究科に所属する塾生を主体として、彼らがスポーツを通して健全な心身を育成することで、教育研究活動の発展に大きな貢献を果たされており、これからも、益々その意義は高まるものと確信しております。

慶應義塾大学理工学部は、学部創立 100 年に向けて、これからも理工学部体育会とともにその輝かしい新たな歴史を刻み、教育研究活動のより一層の発展と世界に通じる人材の育成を目指して努力を重ねることをお約束致します。